

循環器疾患予後改善のための看護介入に関する研究 —レジストリデータを用いた縦断/横断的解析—

看護学科 内科学領域 丹野 雅也 教授



Q. どのような研究をされていますか？

A. 循環器疾患（心不全、冠動脈疾患、不整脈、高血圧など）や代謝性疾患（糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群など）の症例において、臨床背景、社会経済的背景、生活様式、疾患に対する知識などと臨床経過の関連性を看護学的な視点から解析することを試みています。さらにこれらの因子に対する看護介入が、症状、再入院リスク、生命予後を改善させるかについて、量的または質的な指標を用いて縦断的に解析することを計画しています。

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 心不全に着目して研究をしてきました。最近では高齢心不全入院患者さんの「心不全に対する知識」、「社会的フレイル」および「オーラルフレイル」と心不全の臨床経過の関連性を検討しました。これらの検討では経時的な観察により、新たな社会的フレイルの発生や社会的フレイルの増悪が心不全の予後に悪影響を与えることが示されました。また、横断的解析によりオーラルフレイルの存在、重症度が心不全の予後と強い関連を持つことも示されました（図）。これらの成績から社会的フレイル予防のための看護介入・社会的資源の利用や、適切な口腔ケアによるオーラルフレイルの予防が心不全患者の診療において重要な役割を示すことがわかりました。一方、心不全に対する知識に関しては、経時的な改善は認められなかっただけでなく、予後との関連も観察されませんでした。したがって体系的な教育プログラムの確立の必要性だけでなく、有する知識を実際生活習慣改善に反映するための看護介入の必要性が示唆されました。

	全体 (n=133)	再入院または 予定外受診 あり (n=45)	再入院または 予定外受診 なし (n=88)	p値
OFI8 スコア	4.2 ± 2.4	5.0 ± 2.4	3.8 ± 2.2	0.007
OFI4≥4	82 (61.7)	33 (73.3)	49 (55.7)	0.048

1) J Gerontol A Biol Sci Med Sci 2018;73:1661-1667
OFI8スコアは4点以上でオーラルフレイルが疑われ、スコアが高いほど重症度も高い

Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 昨今、心不全患者は著しく増加し、「パンデミック」を呈し医学的、社会経済的にも大きな問題となっています。患者さんにとっても死亡率の上昇・繰り返す入院や辛い症状によって QOL が大きく損なわれます。心不全に対する内科治療は確実に進歩はしておりますが、現時点での最良の治療をおこなっても再入院率も大変高く、生命予後も良好とはいえません。近い将来、適切な介入標的に対して適切な方法で看護を行なうことで、心不全患者さんに生命予後や再入院率、QOL の改善をもたらすことができるように、研究を続けていきたいと思っております。

もう少し知りたい! と思った方はこちらへ

- 看護学科内科学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_naika.html

- 大学院保健医療学研究科看護学専攻臨床内科学 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmcrc0000003w3k.html